

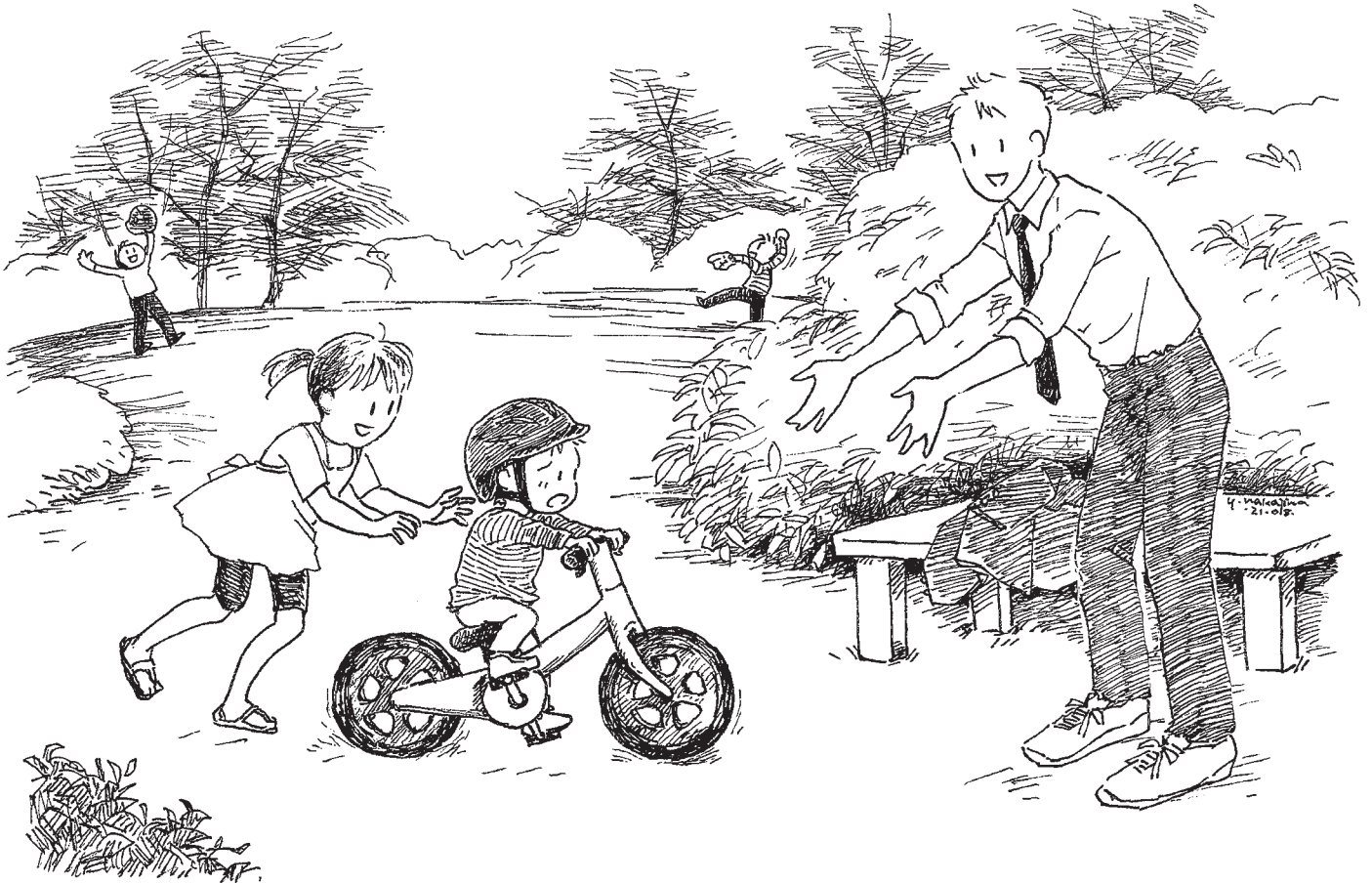
光の子



No.202 2021.10.10

●年間聖句 知る力と見抜く力とを身に着けて、あなた方の愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。

(フィリピの信徒への手紙1章9、10節より)



「支えてくれる人がいるから」

表紙絵・中島由起子

故郷

黛 まどか

野に山に父の気配や秋の風

手花火の輪に加はりし影ひとつ

もろともに水を被りて墓洗ふ

よき音を立てて澄みある忘れ水

父黛執の忌日を「秋水忌」とす

夕星の山河を束ね秋水忌

水澄みて山澄みて父澄みゆけり

墓抱いて山河滴る故郷かな

「光の子らこく」

光の子どもの家 施設長 竹花 信恵

光の子どもの家の建設は1985年、今から36年前になります。土地は雨が降ると茶色一色のぬかるみになりました。土を運び、旧国鉄の枕木をいっただいて通路に敷き詰め、木々や花を植え、壁を磨きペンキを塗り、あらゆる作業にたくさんのボランティアの皆さんの協力がありました。

光の子どもの家は創立当初から可能なかぎり「家庭的」であることを目指してきました。

大舎が一般的だった時代に、定員10名の家が3軒、合わせて30名。一人の保育士が5名以下の子どもと寝食を共にする中でかけがえのない関係を育むことを基本に、そのグループを二つ合わせてお互い協力できるようにし、サポート職員も加えて、それぞれの家を構成しました。2003年から展開する分

園は「地域小規模児童養護施設」と「分園型小規模グループケア」として認可を受け、現在光の子どもの家は5軒、定員36名です。

小規模、地域分散について先駆的に実行してきましたが、今後の国の方針では「小規模グループケア」の定員が6名以内になる予定です。私たちの現在の一軒では、2、3名はみ出してしまいます。満員の状況に連日の入所依頼が続きますが、逆に定員を減らさないと対応できないせめぎ合いがあります。

それだけでなく物理的環境については、入所する子どもの高年齢化とともに個室が必要になったり、食卓を囲むにも狭さを感じるようになっていくなど、日々悩み考えさせられることばかりでした。現在子どもたちの生活が整えられるよう大規模改修の準備を進めているところです。

先日、住む人がいなくなったから、と家を一軒寄贈していただきました。まずは改築中の仮住まいとして活用したいと考えています。

設立の理念「子どものための子どもの施設」は、子どものことが後回しになっていた当時の既存の施設に対して、そうではない施設をつくりたいという願いと祈りが込められていました。

時代や社会が変わり、「普通」「家庭的」「子どものため」とは何か、立ち止まってみると職員の中でも価値観は多様でした。お互いに考える中で、「子どもが安心したかどうか」を指標として加える大切さを職員一同共有しているところなんです。

入所に至る子どもの状況も変化しています。創立時は「家庭で育てられない子ども」の家庭に代わる関係と環境を、という視点が中心でした。今は虐待、性、発達障害など、分けては考えられない課題を抱えた子どもたちが、家庭から引き離されて入所するケースが大半です。ただ「関係の近さ」を目指すので

はなく、「適切な距離感」が求められています。職員同士の連携、チームワークはもちろんです。医療、教育、他機関との連携も欠かせません。

毎日いろいろな事が起こります。感染症の問題も生活に密着してきました。ずっと以前「何があっても大丈夫」と自分に言い聞かせる日々がありました。まだまだ何がおこるかわかりません。光の子どもの家はどんなはたらきもひとりによるものではなくそれぞれが支えあつて助けあつて歩む家であることを、大変なことと出合うたびに教えられます。

出会った子どもたちが社会に出て何年経っても、みんなのことを応援している場所があることを忘れないでいてくれるように関わり続けます。光の子どもの家のこの先も、次に向かって必要なことを、おそれずできますように、そして、この家の名前の由来どおり、この先も光の子らしく歩み続けることができそうです。心に願っています。それぞれにとって実りの季節となりますように。

光の子どもの家の事業計画 (2) 情報・通信委員会

児童指導員 佐藤 義岳

本委員会の目的は、施設内の暮らしや業務にメディア機器を取り入れる際の注意点や手続きを整理することです。今年度の課題を4つご紹介します。

課題① 子どもの「スマートフォン」の見直し

従来より、中学卒業後の進路が確定した後、子ども名義の端末を持てるようにしています。

端末の使い方や月々の支払い方法を「約束」としてまとめ、購入前に子ども・担当職員・施設長がサインします。しかし、使っているうちに「約束」が曖昧になってしまふことがあります。

そこで、「約束」の有効期限を年度限りにし、1年ごとに更新が必要としました。子どもとそれぞれの担当職員で話し合い、振り返りや見直しの機会とするためです。昨年度までに購入済の子ど

もは有効期限なしの「約束」がありました。事情を説明して納得してもらい、期限付の「約束」に更新しました。

課題② 子どもの「インターネットの約束」作成

もともと、光の子どもの家で子どもがインターネットを使えるのは、「各家に設置されたパソコン」か「中学卒業後に購入した自分のスマホ」に限られていました。

それが現在では「自分用の携帯ゲーム機（主にNintendo Switch）」「職員が用意したタブレット端末」があり、幼小中の子どもたちもインターネットに触れるようになりました。

これは、子どもたちの生活を豊かにしようという思いからそれぞれの職員が考えた結果でした。

例えば「誕生日やクリスマス」のプレゼントで携帯ゲーム機を与え、子どもの要望に応

えてインターネットに接続する。「職員が買い換えで使わなくなったタブレット端末を施設のWi-Fiに接続し、子どもに貸し出す。」といったことです。これらは個別の対応として行われました。また、どんな経緯でいかなる対応をしたのか共有されないこともありました。

そのうち、子どもからは「なんで自分は厳しい（約束）をしないとスマホが持てないのに、あの子は好き勝手やってるんだ」。職員からは「子どものゲームやタブレットの使い方が気になるが、声をかけても話が噛みあわない」などの声が出るようになりました。

同じ施設内の子どもですが、「ヨソはヨソ、ウチはウチ」で済ませることはできません。「この条件をクリアしたから、あの子はOKで、あなたはまだ」と説明し、話し合えるようにしたいところです。

そこで、子ども全員について個別に「インターネットの約束」を作ることになりました。

内容は、その子が「使用できる端末は何か」。また、それぞれの端末について「どこで／いつ使ってよいのか」「インターネット回線に接続できるか」「アプリのインストールは自己管理か職員管理か」「見守り設定」などです。表に○×や短文を書き込むことで「約束」が確認できるよう、フォーマットを用意。子どもと職員が話し合いながら、現状や目標を確認できるようにしました。

夏休み前に着手し、現在進行中です。

課題③ 「職員私物の貸出」から「施設所有iPad」に置換

施設として子どもが使用できるiPadを購入しました。課題②と並行して、職員が貸し出す私物からの置き換えを進めていきます。

課題④ 職員の端末使用規定

いわゆるBYOD（個人所有の端末を業務に活用すること）の規定を整備し、職員のはたらきを合理的、効率的にすること。セキュリティを確保し、子どもの安全を守ることとの両立を図ります。

無胃人の弁 (4) 人の情けに泣く

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

病気になって、人の心の細やかな動きに感じ入ることが多くなった。

教え子の奥さんから送られてきたお見舞いの小包を開けて、私は目を丸くした。そこには、十種類近くの食べ物がおもちや箱をひっくり返したように、ごちゃごちゃと詰め込まれていた。しかし、一見して気づいたことは、そのどれもが、無胃人となって間もない私にも食することのできる、食道から直接小腸に入っていくても障りにならない食べ物ばかりで、しかも、そのほとんどが、いわゆる名の通った老舗の品なのである。あちこちと、私の食することのできる名品を求めて探し回ってくれた彼女のことを想うと、涙が出た。

また、病気する前はあまり食べなかつた卵豆腐のお見舞いもおおいしくいただいた。実は、私は大の肉好き人間だったのだが、多分抗がん剤の仕業だとらんでいるのだが、病気をした後味覚が変わって、薄切りの豚肉などは、紙切れをかんでいるような感じになってしまったのである。そんな無胃人にとって、卵豆腐はするりと喉を通っていた。そして、礼状に対する返事に「色々思いあぐねて、これなら食べられるのではないかと、思つて送りました。喜んでもらつてよかつたです。」としたためてあつた。なんと幸せに囲まれて生きてきたし、いま生きているのだろうかとつくづく思う。

な、幸せだらけの人間であつたことに気づかないまま終つてしまったに違いないと思う。がんになつたことに対しても真に感謝の気持ちを持たねばなるまい。

この原稿を書き始めようとしたとき、妻に対する感謝に触れなければ、人でなしだらうとまず思つた。

この間、「死に対する恐怖は感じない」と言つたり書いたりしてきた。それは事実なのだが、毎日の心身の辛さは、死に対する恐怖の感覚などとはまた違い、大変なものである。この毎日の辛さに、私はまるつきり「弱っち」なのである。弱音をしょつちゅう吐くのだが、妻はいつも「大丈夫よ」と励ましてくれる。その一言が、いつも私を救う。一生懸命やってくれている彼女にこんな事を言うのは憚られる気もするのだが、こんなにも優しくしてもらつたのは、60年近い結婚生活の中でも、初めてのような気がする。彼女の献身的な支えがなかったら、「弱っち」はとてつもないことになってくることのできなかつたように思う。

それにしても、どうも彼女は常に弱い者の味方で、これまで、私は彼女にとついても強者であつたということかもしれない。思い起こしてみると、私が子供たちを叱るとき、彼女はいつも彼らの味方をしていた。私は、子供たちに「理不尽大魔王」と呼ばれるくらい、子供たちに対して理不尽な言動も多かつたのは事実であるが、そのこととは関係なく、子供たちに理がない時も、いつも彼らをかばつていた。二人束になつて子供たちを叱つた記憶はない。常に弱い者の立場に身を置く彼女の生来の反骨精神からくるものなのだろう。

感謝するといいながら、彼女の批評をしている自分に気づくのだが、そんな資格はないのかもしれない。先日のとだが、わらび餅のきな粉をテーブルに大量にこぼしてしまい、慌てふためいたのだが、彼女は「ちよつと待つて」と言つて、電話メモに使つているA4判四つ切りの紙を二枚持つてきて、それを巧みに操作して、きな粉を全部きれいに掬い取つてしまつ

た。なんと器用な人だとその時思った。問題なのは、これまでも彼女が器用だとは思っていたが、こんなことまでできる人だとは、今の今まで気づかなかったということである。要は、彼女と一緒に生活してきた60年間、私は自分のことばかり考えていて、細やかな相手のしぐさなどには全く無頓着だったということになる。

竹花家から

保育士 田口 貴子

厳しい暑さが続く中、皆様いかがお過ごしでしょうか。

光の子どもの家では毎年、夏休みに宿泊行事を計画しますが、コロナ禍の今年は、昨年同様宿泊行事は自粛しました。子ども達は家ではテレビを見る、宿題に追われる、スマホをいじるがルーティーン化。そのような中、ひたすら自分の楽しみを見つけ、忙しくしている子どもが一人……。竹花家最年少の四歳の彩。本園ではプールや多くの職員、子どもに関わってもらい何かしらで遊び、家でも紙飛

行機やお手紙などを作りプレゼントして回る。子どもの好奇心や行動力は凄いなと日々感心しています。

彩は自分で作った物を誰かれ構わずプレゼントしたいようで、子どもや大人に「持って帰ってね！」「〇〇にあげようと思つて作ったの！」と言つては渡して回ります。とはいっても、作っている最中は渡す相手が決まっている事が多いですが……。そんなことが繰り返されていると、いつの間にかあげたはずのものがダイニングに置き去りにされることもしばしば。それを見つけるたびに「もう！持って帰つてつて言ったのに！渡してくる！」置いてつちやつた〜！」と怒つたり、残念がつたりしています。本人なりに一生懸命に作っているのは分かりますが、なかなか気が持ちが伝わりきらないようです。頑張れ彩ちゃん：(笑)

この夏休み中、沢山遊び、手先が器用になり、時計も読める事が多くなってきました。一方で、減らず口がレベルアップし、家の子ともも言い合いが多くなりました

が、大きく成長したと感じた夏休みでした。

佐藤家から

保育士 遠藤 恵里香

コロナ禍の夏休み。子どもたちは外出が制限される中でもステイホームで夏を味わっていました。

光の子どもの家では毎年、園庭にプールを出します。幼児が使用する小プールと、小学生が使用する大プールの2つを出しているのですが、年長組のほのかは実力(?)を認められ、飛び級で大プールに入れる事になりました。ほのかは水に対する恐怖心が全く無く、大プールで年上の小学生たちに臆することなく遊んでいました。こちらが特に教えてもないのに、いつの間にか蹴伸びができるようになり、バタ足でスイスイ泳げるようになっていました。夏休みの後半には「ほのかちゃんスイミング習いたい！」と言いつ出すほどプールが楽しかったようです。

夏休みも後半に差し掛かると、「マック食べたい」「お寿

司食べたい」など、外食を希望する声がちらほらあり、外食はできないことを説明したうえで、なにか外食に代わる楽しい食事ができないかと考えた結果、三井さんが流しそいうめんを提案し、子どもたちも「やりたい！」と乗り気であったため、佐藤家で流しそいうめんを実施しました。コロナ対策として取り箸と食べる箸を別にしたのですが、どうせなら難易度をあげようと取り箸を極太のタピオカ用ストローに替えて挑戦。子どもたちは次々流れてくるそうめんを、食べるのを後回しにして懸命にすくっていました。

そうめんの他にも、流しうどん、流しソバ、流しミニトマト、流しゼリーと流せるものはすべて流し、デザートのかき氷を食べて締め、皆存分に楽しめたようです。



共育ちカンガルー日記 (61)

「あの日の約束」

近藤 みちる

その小さな幼稚園は、江の島にほど近い閑静な住宅街の中にあつた。江ノ電を下り線路沿いを歩いていくと、どこからともなく子供達の元気な声が聞こえてきて、幼稚園の場所はすぐにわかつた。

「近所にとっても素晴らしい幼稚園があるんです。僕、週に一度出入りさせてもらつていて、子供達と遊んだり保護者とお話したりして。月に一度は先生方と勉強会も持っているんです。優希ちゃんママにも、その勉強会にぜひ来ていただきたいです。」
H先生からそんなお電話をいただいたのは七月のことです。先生はこの年の春、長年暮らした仙台を離れ、娘さん家族の暮らすこの地へ転居されたばかりだった。奇しくもそこは我が家から車で三十分という近さであつた。
先生との出会いは十年ほど前に遡る。当時四歳だった優

希が通つていた児童発達支援センターで、先生は言語療法を担当されていた。園長と懇意ということもあつて、年に数回、はるばる仙台から神奈川県まで、子供達のために足を運んでくださつていた。

「お母さん、優希ちゃんは生きた言葉を話していますね。自閉症と診断されたそうですが、これだけコミュニケーションの力が伸びているのはすごいことですよ。」

初回面談の席で、先生は優希の遊ぶ様子をにこにこ眺めながら、そんな言葉をかけてくれた。私は嬉しくなつて、少し得意げに返した。「先生、実は私「ユキ語」で優希とおしゃべりできるんですよ。」

「ユキ語」とは、優希と心を通わせたい一心で私が編み出したコミュニケーションのことで、命名したのはパパである。言葉はおろか視線すら

合わなかつた優希が、なぜかオノマトペや歌にはよく反応することに気づいた私が、オリジナルのオノマトペや替え歌を作つて優希に投げかけてみたのが始まりだった。優希

がくすつと笑つてくれるだけで、もう天にも昇る気持ちだつた。次第に私は声色やイントネーションを工夫したり、変顔を作つたりして優希の笑いのツボを探るようになった。見事ツボに命中すると、優希はケラケラと声を立てて笑つてくれた。そうやって優希を笑わせているうちに、自然と優希も私を真似てオノマトペや歌を口にするようになっていった。それがまた可愛くて可笑しくて、二人で一日中ふざけ合つてゲラゲラ笑い合つている姿を見て、パパが「優希とママは「ユキ語」でおしゃべりできて楽しそうだね」と言つてくれたのである。これは嬉しかった。不思議なことにこの「ユキ語」と優希の間でしか通じなかつた。私はこの時ようやく優希の母親になれた気がして、少しだけ自信が湧いた。

話を、先生は何度も深く頷きながら、熱心に聞いてくれた。

「僕は今とても感動しています。優希ちゃんと通じ合いたいというお母さんの思いが、「ユキ語」となつて優希ちゃんのコミュニケーションの力を育てたんです。お母さんのやってきたことはすべて正しかつた。ここまで本当によく頑張つてきましたね。」

その言葉に私はすうつと肩の力が抜けていくのを感じた。少なからず心に燻つていた迷いや不安、葛藤。一気に払拭された気がした。大袈裟に聞こえるかもしれないが、正にそれは「魂が救われた瞬間だつたように思う。」

「優希ちゃんママには、いつの日か保健師さんに戻つてもらいたい。あなたにしか出来ない支援がある。仲間になりましょう。一緒にたくさんの親子を支援していきましよう。その日を僕は楽しみに待つていますよ。」

A園での最後の面談で、先生は力強く私の手を握り、思いがけないエールを送つて私達を送り出してくれた。子育て

ただけで手一杯だった当時、そんな日が来ることなど想像だにできなかった私ではあったが、それは私の中で大切な「約束」となった。そしていつもどこかで、私を勇気づけ背中を押し続けてくれたように思う。先生との交流はその後も文通という形で続き、今では「光の子」の熱心な愛読者にもなってくれださっている。

そして九月、待ちに待った先生との再会がこの小さな幼稚園で実現した。どことなく秋の気配が漂う園庭には、元気に遊ぶ子供達の姿と、穏やかで全てを包み込むかのような先生の笑顔があった。ふと十年前の日々が蘇り、私の胸は一杯になった。

勉強会では、先生のリクエストでカンガルー日記を資料に、優希ちゃんママとしての体験談をお話する機会をいただいた。あの日の約束は、今も私を導き続けてくれている。

お砂場の

膳の木の実の暮れてをり

みちる

厨房から

調理師 関根 裕介

夏休み、幼児のほのか、彩、秀明と虫取り網を持って近所を歩きました。三人とも、草むらをガサガサやるとバッタなどがはねるのは分かっていても、なかなかつかまえることができません。

少し離れたところで、彩が「ちようちよつかまえた」。見ると、網の中に黄色いチョウチョが入っていました。「彩、一人で捕まえてすごいじゃん」と言う満足げにニコツとしてくれました。残り二人もなんだかんだつかまえることができました。楽しい散歩になりました。

私はどの家にも属さない立場です。手薄な家のフオロ、留守番、子どもとゲームを……。フリーだからこそできる関わりを大切にしていきたいと思います。

コロナ禍が収まったら、また子どもを連れて釣りに行きたいものです。小学一年生の吉尚も、今から興味をもっていろいろです。釣り仲間が増えるのが楽しみです。

原田家から

副施設長 穴水 祐介

今年の夏は、小学1年生の吉尚に就寝前の読み聞かせで絵本をたくさん読んだ。その中で何度も読んでくれとせがまれる2冊がある。そのひとつは、私がこどもの頃にも親から読んでもらった名作『ちいさいおうち』（バージニア・リー・バートン、岩波書店）である。昔は小さな単行本であったか、今では大型本も発売されていてバートンのすてきな絵がより一層楽しめるようになった。自然や動植物が好きな吉尚は、四季折々豊かな自然の中でちいさいおうちが楽しんでいる風景が好きなようだ。そしてポロポロになつてしまったちいさいおうちが昔建っていたようなみどりの丘に引越した場面をみて喜んでいた。

もう一冊は、『おこだでませんように』（くすのきまさしげ作、石井聖岳絵、小学館）である。主人公のぼくは、吉尚と同じ小学一年生、多動で乱暴でそれでいて自信がなくて小心者だけど本当は根っこ

は繊細で優しい。まるで吉尚そのものを見ているようだ。それに加えておとなに怒られている時の固まってしまった横顔がそっくりなのである。本人は意識はしていないかもしれないが共感しているのかもしれない。読み聞かせをする本は、事前に何回か声を出して読んでみる。台詞をどんな気持ちで言うのかをあれこれと考えながら試してみる。

「おこだでませんように」というのは、いつもいつも怒られていたぼくが、七夕の短冊を書く授業で習ったばかりのひらがなで一生懸命に気持ちを込めて時間をかけて一文字一文字書いたことばである。この短冊を見た時にぼくのストレートな気持ちが、吉尚から私へのメッセージのように感じ、感動と反省で次のページへと進むことはできなかった。私自身も吉尚に怒ってばかりだったとこの絵本から教わった。日中にエネルギーを発散してきて読み聞かせ途中に寝落ちてしまうことも多々あるが、これからもこの静かな時間を大切にしていきたいと思う。

うわさ

彫刻家 中島 睦雄

我々の生活の中には「うわさ」というものが溢れている。人から人に伝えられる「うわさ」。これは、好意的なうわさや、悪意に満ちたうわさなど、色々である。

この度は、わたしがこの「うわさ」話に乗り、巡り巡って私の所にまで伝わってきた。

色々な活動を通しての仲間の一人にSさんがいる。このS女史が或る時、私の所に用事があつて立ち寄った。7月に入つて、かなり暑い日だったのだが、私は風邪気味だったので、薄い下着1枚でベッドに入つて寝ていた。そんな時、玄関から「ピンポン♪」と来客のSさんである。まさか下着一枚で美女の所に出て行く訳にもいかず、そばにあった綿入れ半纏を羽織つてSさんに対応した。そして、用事も済んで「お茶でもどうですか」と言つて

みたが「まだ他にも用事があり行かなくては」とお茶も飲まずに帰つて行つた。

その後のSさんが行つたのは、これも私たちの仲間のAさんの所だったようである。このAさんもなかなかユーモアのある楽しい美女である。

Sさんはそこで私のことを「うわさ」したらしいのである。Aさんの所にはこれまた親しいOさんもいたらしく、そこでの私に関する「うわさ」話を後日私に用事があつたOさんが伝えてくれたのである。

「あのね、中島さんは七月の暑い日なのに、綿入れ半纏を着ていたのよ。少し頭がボケたみたいね」とでも言つたらしい。

三人の会話で私の事について話が深まって行つたのである。勿論それらの人は皆好意的な方々だから、悪く、悪く、という方向に話は発展し

なかつた筈である。

井戸端会議的な軽いノリで、楽しく話していたことかと思ふ。

私も、御期待通りではないが、それ程ではないにしてもボケが始まっている。

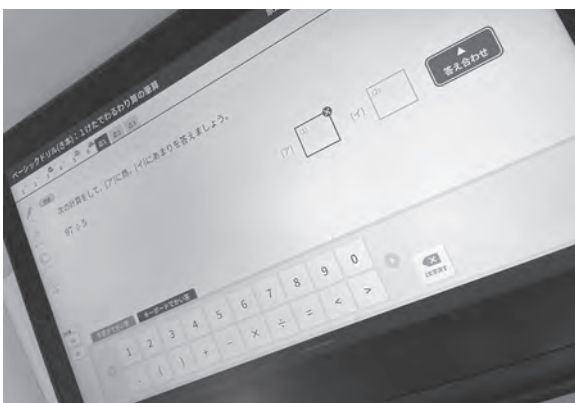
人の名前を忘れてしまう。自宅からアトリエに何を取りに行つたか忘れ、自宅に戻ると思い出し、またアトリエへということが多々ある。ただ、今のところ他人に迷惑をかける程まではいつていない。これは神様に感謝である。

Sさんは、冗談好きで私の人格を良く知っているので、その様な話を気軽に楽しく出来たのだろう。

そのうち、演技でもして御期待に答えてやろうかと思つたりしている。Sさんに会つたら「あれ!!どなたさんでしたっけ?」とでも言つてみたらSさんは「あれ!!この人のボケは本物だったんだ」と思ふ、またそれが「うわさ」となり巡るか、それとも「いつも冗談を言つてらあ」と思つてくれるか。

その結果によつてだが、今

度はこちらがSさんの現実を判断できない「ボケ」の始まりか。と「うわさ」話として何人かに伝えてしまおうかとも思つている。



小学校のオンライン授業



夏の終りに花火

五人と私の十年

児童指導員 新吉屋 健太

光の子どもの家の職員になって十年が経ちました。とても短いようにも長いようにも感じます。

職員になった年は、小学一年生が五人いました。同じ「一年生」同士だったこともあって、当時から今に至るまで思い入れが強い子どもたちです。この五人とは、一緒にいろいろな行事を経験してきました。

彼らが小学二年生の年の「子ども祭り」では、園庭全体を使ったスタンプ集めをやりました。子どもたちの考え

や思いつきを形にできるよう手助けする側としては、一手間も二手間もあり大変でしたが、忘れることのできない思い出の一つとなっています。

夏の山登り行事では、二度の白根山（日光）登山。一度目は途中の湖で引き返し、翌年再び山頂にチャレンジしました。別の年には、天狗岳や赤城山にも登りました。天狗岳は朝早くから登りはじめ、下山が夜七時だったことが印象深く残っています。

長時間の山道で子どもたちは心身共に消耗し、諦めたく

なったり、それでも必死に歩こうとしたり。そのときの表情や表現は、日常生活の中で見るものとはまた違っていて、一緒に歩くことができてよかったです。

四月の「進級進学祝会」で新年度の抱負を一人ずつ順番に発表するときは、五人もいると三者三様ならぬ五者五様でした。もじもじしたり、口ごもったり、語尾が弱くなったり、事前に考えていた内容が急に変わってしまったり、極端に力強く発言したり、その場を乗りきるための発言をしたり……。

晴とは学校の宿題や受験に向けて非常に濃密な時間を過ごしました……。中学三年生から特別支援学級に移り、卒業後は特別支援学校へ。最近学校について話をしたら「今まで（通った学校の中）で、今が一番楽しい」と言っており、ホッとしました。

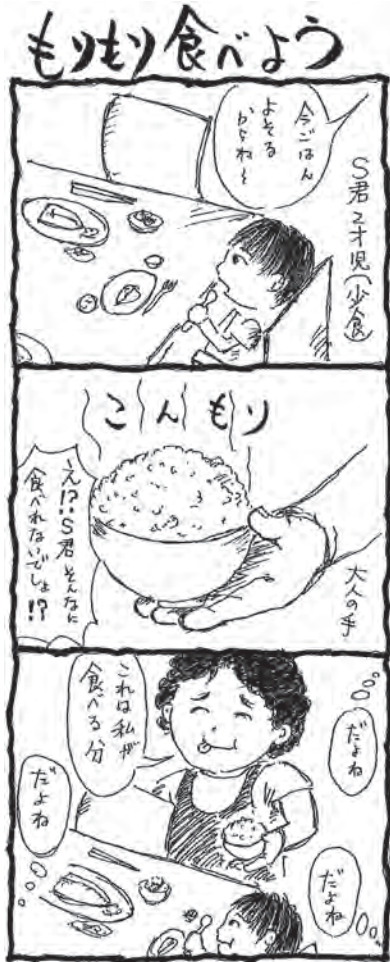
董は中学二年で親元に帰りました。ピアノを習っていたころ、送迎中に見せてくれた笑顔が記憶に残っています。楓は自転車で高校に通っています。小学四年生で辞めた

サッカーを中学校の部活で再び始め、引退までやりきりました。現在はバドミントン部です。夢をもって高校生活を送り、今より精神的にたくましくなっていてほしいと願っています。

千暁とは四年前の家行事でアクアマリンふくしまへ。水槽をすいすい泳ぐ生き物を無邪気な顔で撮っていた姿は、貴重な思い出です。

利一は高校で農業を学んでいます。幼いころを知るものとしては「まさか植物に興味をもつとは……」。性格、体格、制作物など自己主張が強く、やることなすこと規格外でエピソードの尽きない彼。どうかこの三年間で自分自身と向き合い、進級、卒業へのハードルを乗り越えてほしいと思います。

この十年間、関わってきたどの子どもに対しても、「将来こんな人間になってほしい」「こんなことができるようになってほしい」というメッセージを発信してきました。今はまだ受け取ってもらえなくても、いつか届く日を楽しみに待ち続けます。



寄付金受領感謝報告

2020年4月1日から2021年3月31日までに受領いたしました。

「光の子どもの家を支える会」への寄付金は **462万6537円**

「光の子どもの家 自立進学基金」への寄付金は **132万3764円** でした。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りに、心より感謝申し上げます。

尚、ご寄付をいただいた方で、お名前が漏れている等お気づきの点がございましたら誠に恐縮ですが光の子どもの家までご連絡下さい。

次号（「光の子203号」）にて訂正致します。

光の子どもの家を支える会	代 表	永野 三恵
光の子どもの家自立進学基金	代 表	藤岡 孝志
社会福祉法人光の子どもの家	理 事 長	大高晋一郎

木村	菊池	川村	川浪	加藤	角尾	柿崎	大大	大野	大大	大生	遠藤	榎本	梅野	上瀧	岩村	岩田	今関	今井	井上	阿部	穴水	安達	浅海	青木	相崎	付（敬称略、順不同）	「光の子どもの家を支える会」への寄付		
澄子	章子	雅保	恵美	洋子	和子	江美	寿和	清榮	倫夫	文江	睦二	不夫	義実	真子	有紀	大子	聡子	弘枝	公雄	千代	千恵	育子	芳成	服子	徳子			正子	洋子
						子																							

瀧口	高橋	仙道	関根	末柄	醬野	下川	清水	清水	シズ	渋谷	繁永	佐野	佐藤	笹村	佐々木	坂口	齋藤	齊藤	齋藤	斉藤	斉藤	今野	古森	ゴトウ	後藤	後藤	光田	小池	黒岩	黒岩	木村	
俊子	典代	清太郎	淳弥	定弥	良子	真由	将之	亨桐	みアキ	芳己	幸枝	協子	元康	英紀	慶行	知弘	俊一	重夫	久美	アキコ	悦子	美沙		利子	章一	邦二	みどり	美智子	明日香	富雄		
						子																										

堀田	星野	藤原	福島	深谷	深川	平原	服部	波多野	袴田	灰谷	根岸	沼田	丹羽	ニシ	西村	中村	ナカ	中島	中澤	中澤	内藤	鳥越	豊里	豊国	友村	富岡	土野	谷崎	田嶋	
哲一	敏子	礼美	明子	春男	富久	千鶴	恵子	町子	道子	和子	樋代	亜麗	祐子	吉康	聰子	佐智	ラク	睦雄	美奈	雅宏	芳江	宏子	靖子	道江	弘子	深恵	温子	章之	真貴子	
				子																										

本田 徹	(宗)小山聖泉	(株)テイ・エス	同	同	同	武蔵台	高橋 蘭子
前田 岳斗	キリスト教会	ロジステイクス	同	同	同	基督教福音教会	武田 知子
増子 真祐美	関西学院高等部	東京都杉並区	同	同	同	明治学院高等学校	田中 瑠津子
松永 睦美	同 宗教活動委員会	阿佐谷民生	同	同	同	目黒星美学園	常松 洋介
松野 敦子	関東学院小学校	児童委員協議会	同	同	同	ユージュリッド	テロイヤン ジャン
宮川 一夫	同 中学校高等学校	東洋英和女学院	同	同	同	エージェンシー	長沼 修
宮野 恵子	基督教兄弟団	小学部	同	同	同	幼稚園型認定	平林 恵子
宮原 康子	境キリスト教会	小学部母の会	同	同	同	こども園	堀江 悠子
森山 ひろみ	(福)共励福祉会	中高校	同	同	同	ひばりが丘教会	松岡 啓貴
矢崎 正一郎	つのぶえ保育園	宗教委員会	同	同	同	三島教会	真船 靖
矢吹 正道	(学)恵愛学園	中学部・	同	同	同	水元教会	村上 穂津美
山岡 節子	(学)ゲーンズ幼稚園	高等学部母の会	同	同	同	元住吉教会	八木 祥子
山口 敏子	園長高田憲治	同窓会	同	同	同	守谷教会	山崎 章子
山口 智子	埼玉地区婦人部	同	同	同	同	薬田台教会	山田 智
山田 智	坂戸キリスト教会	日本キリスト教会	同	同	同	四街道教会	山本 ゆかり
山田 知子	狭山シャローム	横浜海岸教会	同	同	同	和戸教会	金沢元町教会CS
山田 裕太	教会CS	日本基督教団	同	同	同	世田谷中央教会	しずくの会
大和 友子	シオン幼稚園	青戸教会CS	同	同	同	伊藤 千賀子	長野本郷教会
湯澤 真彦	(学)頌栄女子学院	安行教会	同	同	同	稲塚 由美子	東中野教会
横倉 順治	(学)女子学院	岩槻教会	同	同	同	岩井 章雄	社会委員会
吉田 和子	白百合学園小学校	王子教会	同	同	同	岡崎 瑠美子	(勸)ミツタカ
吉野 久美子	慈善協力献金	荻窪教会	同	同	同	岡野 和子	明治学院高等学校
渡辺 貴子	しんせい幼稚園	鎌ヶ谷教会CS	同	同	同	金田 卓也	PTA
愛足るベジダブル	聖学院教会CS	鎌倉恩寵教会	同	同	同	工藤 幸子	門学校に進学した1
青山学院幼稚園	同 小学校	北本教会CS	同	同	同	小林 一葉	名の学費に充てさせ
同 幼稚園保護者会	同 PTA宗教部	京葉中部教会	同	同	同	近藤 雅夫	て頂きました。
同 初等部	同 大学	埼玉和光教会	同	同	同	佐伯 明美	
同 中等部	同 中学校高等学校	佐倉教会	同	同	同	佐伯 勇	
同 高等部	同 みどり幼稚園	佐渡教会	同	同	同	新野 佳代	
(学)ヴォーリス学園	(学)捜真学院	狭山教会	同	同	同	須賀 朋樹	
	中学部高等学部	渋谷教会	同	同	同	タカハシ ユリカ	
	(学)玉川聖学院	白岡伝道所	同	同	同		

日誌抄

2021年7月～8月

【8月末現在の在籍児童数】

幼児 3名 小学生13名
中学生6名 高校生10名
その他1名 計 33名

【7月】

2日 高3の萌愛バイト開始
5日 関東ブロック児童養護施設研究協議会（オンライン）、竹花と湯澤が参加
7日 職員研修、久喜CAP来訪
20日 園庭で夏休みオープニングパーティー&7月生まれの誕生会

21日 園庭プール開き
24日 地域の方のご厚意でブルーベリー摘みへ
30日 避難訓練（火災想定）

【8月】

5日 帰省中の子どもAがPCR検査陽性、自宅療養のため14日まで帰省を延長
9日 職員1名（以下B）が新型コロナウイルス濃厚接触者疑いで隔離、以降保健所の指示を受け対応、Bの所属する家（以下X家）の子どもは家の中で待機、それ以外の

家は通常の生活を続けてよ
いとのことだが念のため週
内は部活や習いごととも休ま
せ施設内待機に

12日 職員BがPCR検査陽
性に
13日 X家の子どものPCR
検査実施

14日 職員Bがホテル療養
に、X家の子ども1名（以
下C）がPCR陽性

15日 子どもCがホテル療養
に、X家の子ども2名（以
下D E）発熱、嘱託医に連
絡し子どもと職員全員のP
CR検査を準備

16日 子どもD EのPCR検
査、それと別に子どもと職
員全員のPCR検査実施

17日 子どもD EがPCR陽
性、保健所から自宅療養の
指示

19日 X家以外の子どもと職
員のPCR結果、全員陰性

21日 職員Bがホテル療養を
終え自宅療養に

23日 子どもCがホテル療養
を終え自宅療養に、X家は
念のため月内いっぱい外出
せず療養につとめる

29日 20歳になった仁が購入
した中古車を見せに来訪

30日 小中学校始業式
【委員会の主な動き】

運営 実習生受入検討
危機管理 コロナ対応協議、
避難訓練

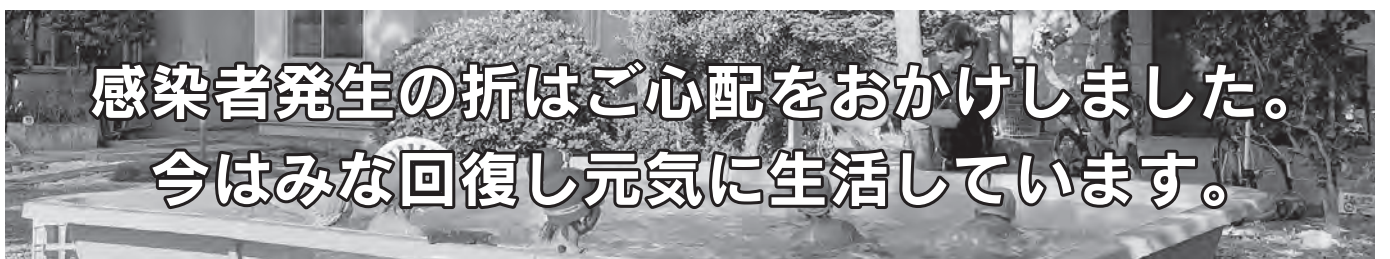
学習支援 小学生学習会（下
校後、土曜午前、夏休み）
環境整備 芝や園庭の整備、
ゴミ捨て&分別指導

食生活 幼児アレルギー検査
検討 非常食炊き出し体験

広報 「光の子」編集・発行
情報・通信 3ページの「課
題②」参照

【寄贈者各位】（敬称略）
相崎伸子 雨宮勝 新井好江
稲塚由美子 今福良子 大橋
清栄 菊地友枝 古河農友会
木暮伸二 櫻井秀夫 清水亨
桐 白井英伸 鈴木史乃 高橋
くすく広場 須藤フミ 高橋
和男 高橋佳祐 豊島聡子
鳥海良子 中島睦雄（株）なと
り 新村文子 西村博之 長
谷部大晃 長谷部千明 浜田
文昭 フードパントリー 谷
口活観

【ボランティア各位】（敬称略）
〈華道〉岡本有代 〈手芸〉山
田智 山田裕子 〈学習〉久
米村貴子 常松洋介 横山零
樹 他多数の皆様



感染者発生の折はご心配をおかけしました。
今はみな回復し元気に生活しています。

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277
【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp
【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】00130-1-128022
【印刷】(株)エル・アートデザイン